

## ■私の『選択』

稲賀 繁美（京都精華大学教授・国際日本文化研究センター名誉教授）

「選択」という言葉は、ギリシア語の「批判」と語源を同じくする。古代ギリシアの叙事詩『オデュッセイア』では、英雄オデュッセウスが危険な航海に先立ち、同志を募る場面である。およそ物事の判断には「選択」が不可欠。だが混迷を深める現代には、特効薬となる選択肢は残されず、政治や社会の舵取りでも「悪さが比較的軽度」な「選択」しか許されない。この消極策の累積が、今や大きな破綻に瀕している。「コロナ禍」には、容赦ない現実を我々の目の前に突きつける「功德」があった。本誌『選択』は、この教訓を未来の世代に委ねる使命を果たしている。航路設定には、多国籍の乗組員の協働が不可欠となる。